



急な病気やけがをしたときに救急車を呼ぼうかどうか、迷うことはありませんか。突然の重い病気やひどいケガなど、緊急性が高いときは、すぐに救急車の要請が必要です。

一方で、救急車や救急隊員の数は限られていますので、症状の軽い方が安易な救急要請をすることは望ましくありません。2021年中に救急搬送された人の4割以上が「軽症（入院加療が必要ないもの）」となっています。

救急車を適切に利用するためのポイントを紹介します。

●「119番」で救急車を要請するときのポイントとは？

一刻を争う状況では、必要な情報を簡潔に伝えることが大切です。

119番に電話をしたら、

「救急であること」「住所」

「症状」「年齢」「性別」

などを伝えましょう。

また、通報内容から通信指令員が救急車の到着前に応急手当の必要があると判断したときは、適切な応急手当の方法を指導されます。

そのほか、急病やけがの状況や、持病の有無、ふだん服用している薬、かかりつけ病院なども尋ねられることがあります。

●救急車を呼ぶかどうか判断に迷ったときは？

「緊急性の高い症状かどうか自分で判断できない」

「救急車を呼ぶほどではないけど受診したい／相談したい」

「119番に電話するのがためられる」

というときは、電話やインターネットですぐに相談できる

・全国版救急受診アプリ「Q助（きゅーすけ）」

（急な病気やけがをしたとき、症状の緊急性を素早く判断するために、消防庁が提供）や、

・救急安心センター事業「#7119」

（急な病気やケガをしたとき、救急車を呼んだほうが良いか、今すぐに病院に行ったほうが良いかなど、判断に迷ったときに用いる電話相談窓口）

があります。

・小児救急電話相談事業「#8000」

休日や夜間にこどもが急に病気になったとき、どのように対処したら良いか、病院を受診したほうが良いかどうかなど、迷ったときに相談できる全国共通の電話番号です。

●救急車が到着するまでの間は何をすればいいの？

自宅から119番通報した場合は、保険証やふだん飲んでいる薬（又はお薬手帳）、お金、靴など、乳幼児

の場合は、母子健康手帳、紙おむつ、ほ乳瓶、タオルなどを準備してください。

また、けがや病気の状況によっては、何もしないと病状が悪化する場合がありますので、その場に居合わせた人が応急手当をすることが重要です。万々に備え、応急手当の知識と技術を身につけておきましょう。

「Q助（きゅーすけ）」

・iOS版

<https://itunes.apple.com/jp/app/id1213690742>

・Android版

<https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.co.elmc.emergencyapp>

・Web版

https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/filedList9_6/kyukyu_app/kyukyu_app_web/index.html

消防庁「救急受診ガイド 2014年版」

<https://www.fdma.go.jp/publication/portal/post8.html>

アドレスのご変更、メールマガジンの解除は下記アドレスで行えます。

<http://www.isr.jp/mailmag/regist.php?u=92>

以上